

令和7年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和7年4月17日
愛知県

- 1 病害虫名 コムギ縞萎縮病
病原ウイルス名 コムギ縞萎縮ウイルス *wheat yellow mosaic virus*: WYMV

- 2 発生作物 コムギ

- 3 発生地域 尾張地域

- 4 発生確認の経過

令和7年3月下旬、県内のコムギほ場の一部（コムギの連作ほ場、品種「ゆめあかり」）で、茎葉が細長いかすり状に黄化する症状が確認された。その後、症状のあった株について、農業総合試験場でRT-LAMP法による検定を実施したところ、コムギ縞萎縮ウイルス（WYMV）の陽性反応が確認されたため、コムギ縞萎縮病と同定した。

なお、県内での本病の発生については、数十年前に発生の記録はあるが、近年は確認されていない。

- 5 病徴及び被害

（1）ほ場の発病の甚だしい部分を中心に同心円状、または、畦方向に沿って広がる。

（2）葉に、黄化や、黄緑色の細長いかすり状の斑点が葉脈に平行して生じる。

病徴は3月頃に顕著となるが、4月に入ると病徴の回復が起こり健全ほ場との差が分かりにくくなることもある。

（3）症状が進んだ株は、全体が黄化し、葉身の生長も悪くなり萎縮を示す。萎縮による影響で一穂粒数や千粒重が減少し減収につながる。

- 6 本ウイルスの特徴

WYMVを保毒した土壤中の *Polymyxa* 属菌がコムギの根に寄生することによってコムギに感染する。播種後、日平均気温が5～15℃の時期に感染が起こる。その後、冬期の潜伏期間を経て発病に至る。病徴は日平均気温が5℃前後で最もはっきりと現れ、10℃前後では病勢進展は停滞する。

なお、発生ほ場では長期間土壤中に病原が維持される。

- 7 防除対策

（1）農機具に付着した汚染土は伝染源となるため、発病していないほ場から作業を開始するとともに、作業後は他のほ場へ移動する前に農機具（ロータリー等）の土をしっかりと落とす。

(2) 本病の感染リスクを下げるため、可能な限り播種期を遅らせる（目安：11月26日以降）。

8 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-41-9513



写真1 スポット状に黄化症状が発生



写真2 黄化症状の株の様子



写真3 かすり状の斑点